


環境・社会報告書2020

株式会社ダイセキ環境ソリューション





便利になった現代社会には
様々な環境問題が生じています。

編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆様にご覧いただき、当社の環境及び社会的責任に対する考え方と取り組みを理解していただくこと、そして当社全社員の意識向上を図ることを目的として発行しています。今年も当社の新入社員が中心となり作成しました。より当社の方針が伝わる内容を目指して、取材と工夫を重ねました。

発行日 2020年8月31日

対象期間 2019年3月1日～2020年2月29日

対象範囲 株式会社ダイセキ環境ソリューション
名古屋本社 東京本社 関西支社
東北支店 中四国営業所 九州営業所
名古屋リサイクルセンター
弥富リサイクルセンター
岐阜リサイクルセンター
横浜恵比須リサイクルセンター
横浜生麦リサイクルセンター
大阪リサイクルセンター
共同事業汚染土壌処理施設
(仙台リサイクルセンター)
バイオエナジーセンター
名古屋トランシップセンター
株式会社グリーンアローズ中部
本社工場 名港工場
株式会社グリーンアローズ九州

準拠したガイドライン

環境報告ガイドライン2018年版
(環境省)

作成部門 環境・社会報告書作成委員会2020

連絡先 株式会社ダイセキ環境ソリューション
環境事業本部 事業推進部 事業推進課
TEL 052-819-5310
FAX 052-819-5311
E-mail info@daiseki-eco.co.jp

トップメッセージ
P3～4

事業紹介
P5～8

特集
P9～12

環境報告
P13～18

社会報告
P19～23

会社概要
P24

第三者コメント
P25

アンケート
P26

写真撮影

表紙

北原 真帆 (企画管理本部 経理部 経理課)

P1～2

深津 海 (環境事業本部 名古屋事業部 営業課)

P4・裏表紙

金澤 野々花 (企画管理本部 人事総務部 人事総務課)

ご挨拶

まずはじめに、新型コロナウイルスの感染により亡くなられた方々に心よりご冥福をお祈りいたします。当社は医療分野では貢献できませんが、ダイヤモンド・プリンセス号の生活排水の回収など、微力ながら支援させていただきました。また佐賀豪雨や台風第19号などの災害対応も行い、復興を支援させていただきました。

本報告書を通じて私たちの事業がどのように持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献しているかを皆様方にご理解頂き、「こんな貢献の仕方もあるのか」と新しく発見していただければ幸いです。

なりたい姿

当社は2015年に10年後になりたい姿を見据え、VISION2025（下欄参照）を制定しました。この10年計画の前半5年間で弥富、横浜恵比須及び岐阜の3つのリサイクルセンターを設立するなど、ビジョン達成のための土台づくりを行ってきました。後半の5年間では今まで築いた土台で大きく飛躍し、目標を達成しようと考えています。



株式会社ダイセキ環境ソリューション
代表取締役社長

二宮利彦

私たちの使命 MISSION

私たちは、『社会的に不要になったり、負の環境影響を与えるものに対し、工夫を凝らし、再び価値をつける新しい仕組み（環境リバリューストラクチャー）』を創造して、環境課題を解決します。

VISION2025 10年後の姿

2015年に10年後の会社の姿として『VISION2025』を策定しました。

- ① 土壌ビジネスにおけるシェア拡大と市場創造
- ② 新規環境ビジネスにおける開拓者の地位確立
- ③ 価値観を共有し、社員一丸で動ける組織の構築

SDGs※への取り組み

2015年9月の国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、世界中でSDGsの実現に向けて取り組んでいます。私たちダイセキグループの基本理念は「限られた資源を生かして使う」ことです。そういう意味で、SDGsとダイセキグループの目指すゴールは同じであります。

SDGsには17の目標がありますが、土壌汚染対策事業や廃石膏ボードリサイクル事業は【目標11：住み続けられるまちづくりを】に貢献し、災害廃棄物の処理やバイオディーゼル燃料製造販売事業、PCB事業は【目標12：つくる責任、つかう責任】に貢献しています。また働き方改革を通じて【目標8：働きがいも経済成長も】にも積極的に取り組んでおり、「5年間で残業時間を減らした会社ランキング {東洋経済CSR企業総覧（雇用・人材活用編）2020年版} で34位になりました。（2013年度から2018年度で平均残業時間10.4時間削減、減少率29.6%）」


※SDGs（持続可能な開発目標）

2015年9月の国連サミットで採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

私たちのSDGsへの取り組み



| | |
|-------|---|
| 環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境リバリューストラクチャー創造企業として、循環型社会の構築、環境保全、地球温暖化防止を推進 ・環境マネジメントシステム（ISO14001）に則り、環境への負荷を継続的に改善 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の推進 ・安全衛生の推進 ・地域社会との信頼関係構築 ・災害廃棄物の処理対応 |
| ガバナンス | <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートガバナンス ・コンプライアンス勉強会の毎月開催 ・取締役向けRS報酬制度の導入 |

A large, weathered tree stump stands in a lush, green forest. The stump is heavily covered in vibrant green moss and ferns, indicating a moist and shaded environment. Sunlight filters through the dense canopy of trees in the background, creating a dappled light effect on the forest floor. The overall scene is a serene and natural setting.

私たちは社会の静脈産業を担う存在として、持続可能な社会実現のため、日々努力しています。

One Stop

土壌汚染対策事業

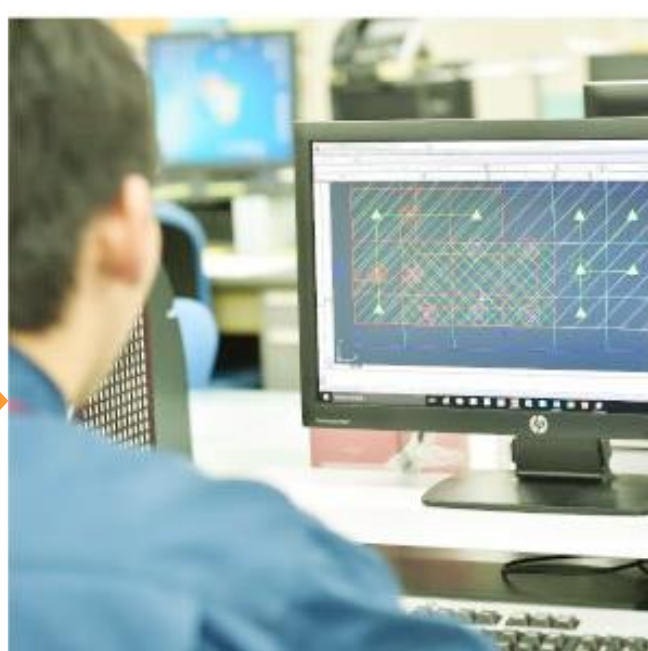
コンサルティング→土壌調査→環境分析→対策・措置

土壌汚染対策に必要なフローを全て一貫して解決可能。スピーディーで低コスト、情報漏洩の防止など安心安全なサービスをご提供いたします。



コンサルティング

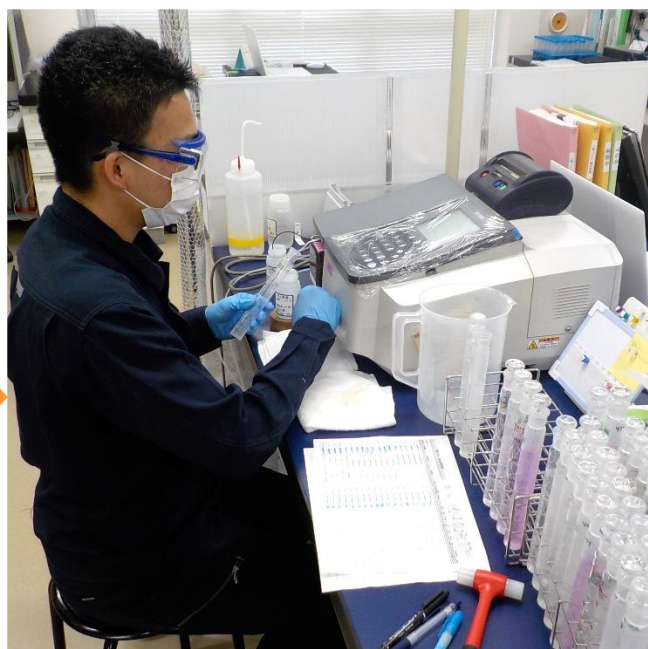
お客様の土地活用ニーズに応じて、最適な土壌汚染対策方法を提案。



土壌調査

地歴調査をはじめ、調査計画の立案、土壌ガスや表層部の概況調査、ボーリング調査等の詳細調査まで一連の土壌調査を実施。

Solution



環境分析

環境分析部では計量証明事業登録（愛知県第268号）をして高度な環境分析に対応。→特集P10



現場対策工事

掘削除去（左上写真）

汚染土壌処理施設で処理するため、汚染土壌を掘削除去して運搬。

オンサイト処理（右上写真）

化学薬剤などを用いて現地で汚染土壌を浄化。



汚染土壌処理（見開き背景写真）

国内最大級の自社プラントによって、洗浄処理、加熱・抽出処理、セメントリサイクルなど、適正な処理を実現。

事業紹介
**バイオディーゼルの
 燃料製造販売事業**

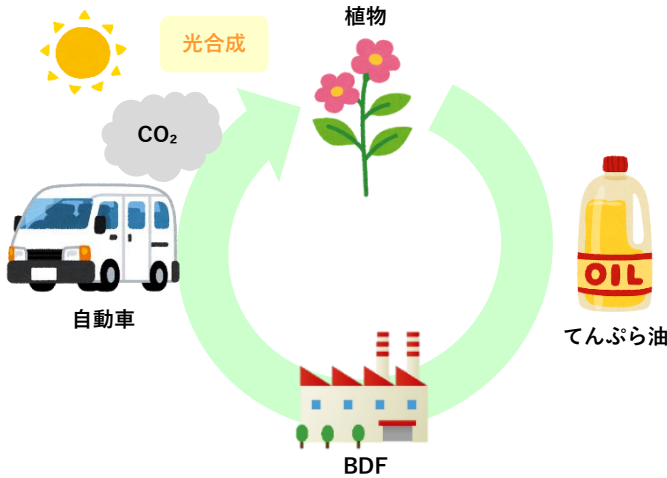
てんぷら油が燃料に

バイオディーゼル燃料（BDF）は、植物由来の油から製造される燃料です。当社では、飲食店や給食センターなどの事業者や市民の方から回収した廃食油を原料に、BDFを製造しています。BDFは、名古屋市の市バスに使っていただいているほか、民間の施設で車両やフォークリフトに使用していただいています。

BDFはCO₂排出ゼロ

BDFの使用によって発生するCO₂は、原料である植物が大気中から吸収したものであるため、地球環境中のCO₂が増加したことはありません。これを、カーボンニュートラルといいます。BDFを使用することで、化石燃料の使用量を抑制し、CO₂排出量の削減を図っています。

CO₂排出ゼロの仕組み



スーパーに設置中の廃食油回収ボックス

安心・安全な環境づくりに貢献

PCB（ポリ塩化ビフェニル）は、極めて安定的な性質を持っており、電気機器の絶縁油、熱交換器の熱媒体などの用途に広く使用されてきましたが、人体に蓄積して健康被害を引き起こすことが明らかになり、現在では製造・輸入の禁止とともに、取り扱いも法令によって規制されています。

当社では、行政対応を含めて、低濃度PCB含有機器の調査・分析から処分先の手配まで一貫して対応しています。名古屋トランシップセンターは、PCB含有機器を効率よく運搬・処理するための積替保管施設です。PCB含有油を機器から抜油し運搬することで、運搬の効率化だけでなくCO₂の排出抑制にも効果があります。

対応のフロー

調査・分析



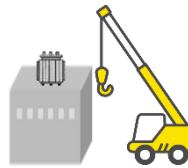
- ・ 銘板調査
- ・ PCB分析

行政対応



- ・ 届出等提出
- ・ 行政相談

機器引き出し



- ・ 屋上や地下、倉庫奥にある機器の引き出し

処分場への運搬



- ・ 積み合わせと積み替え保管による効率化

様々なケースにも対応

PCB不含機器引き取り

PCB基準値（0.5mg/kg）以下の機器も引き取ります。

不法投棄・漏洩対策

不法投棄や漏洩があった場合、土壌等の環境調査や汚染物の回収・仕分けもします。

機器解体

特別高圧トランス等の大型機器を解体します。

安定器等荷姿登録

中間貯蔵環境安全事業株式会社（JESCO）様への搬入、荷姿登録、計量、積み替え、書類の作成も行います。

事業紹介
**廃石膏ボード
 リサイクル事業**

いらないモノに新たな生命を吹き込む

石膏ボードは、壁や天井に広く使用される建築材料ですが、一定の条件で石膏から人体に有害な硫化水素ガスが発生する可能性があり、適切な処理が必要です。

(株)グリーンアローズ中部と(株)グリーンアローズ九州は、解体現場で発生するこうした廃石膏ボードを回収し、廃石膏と古紙とを分けてリサイクルする事業を行っています。排出元(大手ゼネコン)と受入先(石膏ボードメーカー)、処理業者(当社)の連携によって、適正かつ確実なリサイクルを実現しています。



(株)グリーンアローズ中部 本社工場



(株)グリーンアローズ九州

処理のフロー

①廃石膏ボード
受入



②選別



③破碎・粒度調整



④紙



製紙
メーカーへ

④石膏粉

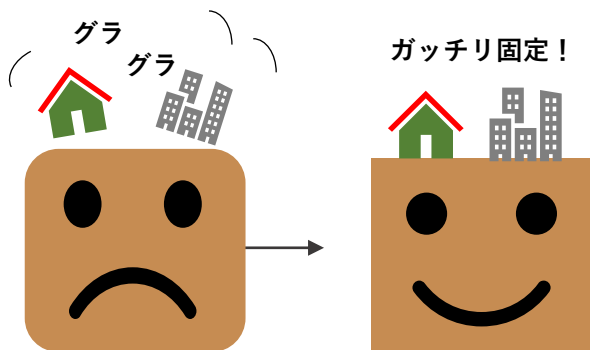


石膏ボード
メーカーへ

事業紹介
土壌改良材事業

住み続けられる街へ

(株)グリーンアローズ中部の名港工場では、石膏粉等の再生資源をベースとしたリサイクル土壌改良材を製造販売しています。更に、当社のバイオディーゼル燃料製造販売事業で製造したリサイクルエステルを添加し、粉じんの飛散を防止する、環境にやさしい土壌改良材の製造販売も行っています。



⑤軟弱土壌の固化材として再利用

軟弱土壌に土壌改良材を添加することで、強固な土壌にすることができます。

厳格な品質管理

環境分析部において各種原材料や製品の分析を行い、適切に品質管理を実施しています。

特集①
新規事業



収集運搬マッチングサービス事業

収集運搬業者と排出事業者・処理業者を繋ぐ マッチングサービス

5.2兆円の市場規模を持つ産業廃棄物処理業界の中で、収集運搬事業は市場の半分以上を占めています。しかし、産業廃棄物の収集運搬は帰り便の活用が難しく、総合的に積載効率が低いといった課題があります。本事業はこれらの課題を解決する新たな収集運搬マッチングサービス事業です。

産業廃棄物の収集運搬は帰り便の活用が困難

【要因】

- ・ 運搬には許認可が必要
- ・ 慢性的なドライバー不足
- ・ 廃棄物の性状が様々である
- ・ 9人以下の小規模事業者が9割近く、会社間の繋がりが薄い
- ・ 産廃契約、マニフェスト等、煩雑な事務処理が伴う

収集運搬マッチングサービス事業を活用

- ・ 広いネットワークにより産業廃棄物の排出者、処分業者、収集運搬業者とをマッチング
- ・ 廃棄物の性状等はオペレーターが対応
- ・ 電子化等により煩雑な事務処理の簡易化

産業廃棄物の帰り便の活用が可能に！

産業廃棄物排出事業者・処理業者→車両不足解消
産業廃棄物収集運搬業者→輸送効率化、コスト削減

収集運搬マッチングサービス事業の 更なる活用

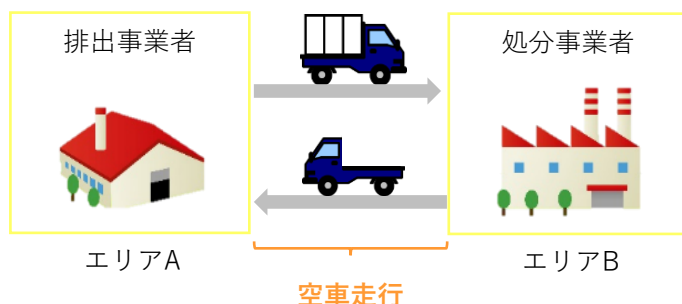
緊急時の配車対応

佐賀豪雨での油流出事故の際は本事業により多くのバキュームカーを配車して対応しました。

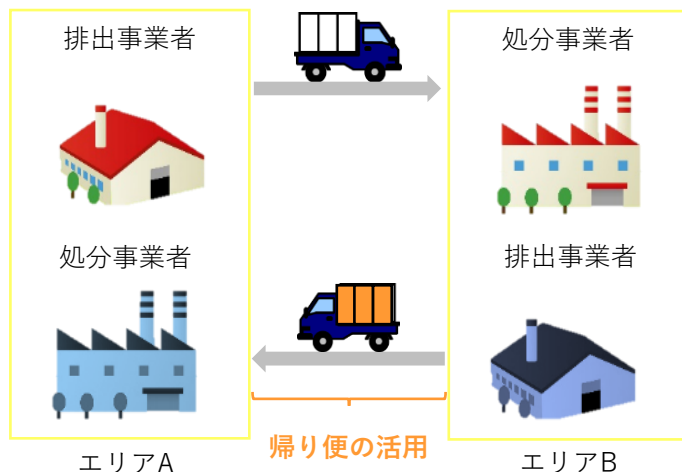
また、新型コロナウイルスの影響で航海できず排水が困難となったダイヤモンド・プリンセス号の生活排水も本事業で配車した回収車が活躍しました。

事業スキーム

従来の運搬



収集運搬マッチングサービスを利用した運搬



トンキロ当り
0.025kgのCO₂の削減効果

特集② 部署紹介

縁の下の力持ちたち

ここでは、当社の縁の下の力持ちとして活躍する部署として、幅広い分野で業務支援を行う事業推進部と、当社の分析を一手に引き受ける環境分析部を紹介します。各部署での苦労話ややりがいなども聞いてみました。

事業推進部の仕事

事業推進課

- 新規事業の開拓
外部との共同研究などを行い、収集運搬マッチングサービス事業やブラウンフィールド事業など新規環境ビジネスの開拓と事業展開のサポートを行っています。
- 既存事業の支援、サポート
営業部門や技術部門、工場部門を統括し、円滑に業務ができるようにサポートしています。
- 許認可管理
汚染土壌や産業廃棄物を運搬や処理に必要な許認可関係の新規取得や更新を行っています。



事業推進課のメンバー

大変なこと

当部では新規事業開拓のように会社の将来を左右するような業務から許認可全般や事業部支援などのように全社の縁の下の力持ちとして幅広く業務を行っています。そのため、当部の一人ひとりが各分野のエキスパートである自覚をもって取り組んでいます。

やりがい

全社の重責を担うという意味で緊張感のある部署ですが、自分のやってきた仕事で大きな成果を残して会社に貢献できたり、支援した事業部でのプロジェクトが成功裏に終わり事業部の皆さんに喜んでもらったときは、この仕事をしていて良かったと感じる瞬間です。

安全対策室

事故を未然に防ぐための対策や工場での安全講習を行うほか、安全衛生に関する資料の配信など社内の安全管理に従事しています。最近では、グループ会社を含め17名選任している安全衛生推進者と力を合わせて安全対策に取り組んでいます。その他、安全標語の募集や、安全コンテストなど社内の安全啓発を行っています。



安全対策室のメンバー

環境分析部の仕事

- 調査、工事、処理の際に採取した試料の特定有害物質の分析
- セメントリサイクルのための成分判定
- 土壌改良材の品質確認や効果確認
- 廃棄物の特定管理判定
- 石膏粉や固化材の品質管理用の分析

大変なこと

当部は決められたルール（公定法）に従って、短納期や低コスト、かつ正確な数値を提供していくことを求められています。当部が提示する数値の社会的責任の大きさについて課員は深く理解しており、そのプレッシャーと戦いながらニーズに応えていくことは大変なことです。



環境分析部のメンバー

やりがい

元々、化学の好きな人たちが多く、それを業務として行えること自体がやりがいです。特に、自分たちの分析した結果がメディア等で取り上げられた際は、環境問題への貢献を感じることができます。

当部の業務は社内の事業部からの依頼が多いのですが、納期対応等で感謝の言葉をいただいたときはとても嬉しくやりがいを感じます。

今後やりたいこと

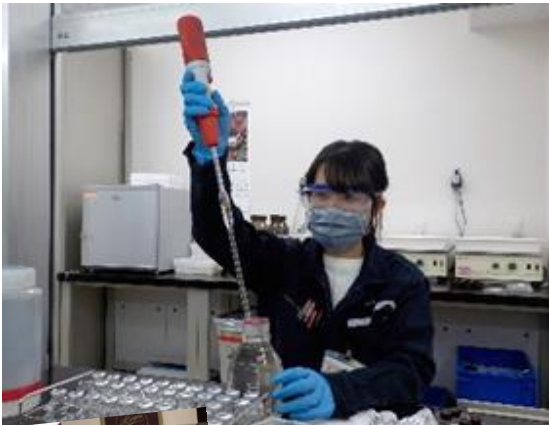
現在、産業廃棄物など多種多様な引き合いが多くあり、社内外からの困りごとも増えています。こうした問題に分析・化学的知見から答える「社内コンサル」を行えるように体制の強化を図っています。

今後は業務の幅を広げていくことで、世の中の環境問題解決の一助となれればと思います。

若手社員 インタビュー

当社の第一線で活躍する若手社員に話を聞いてみました。

- ①現在どんな仕事を任されていますか？
- ②今後どのようなことをやっていきたいですか？
- ③休日のリフレッシュ方法は何ですか？



環境事業本部
環境分析部
分析課
森田 沙也香

- ① 現在はVOC（揮発性有機化合物）の担当者として、VOCの試料受付から測定まで、VOCに関する全ての作業を行っています。VOCは名前の通り常温・常圧化で揮発しやすい物質ですが、そのため揮発によるロスやコンタミネーションが特に起こりやすいため、分析値に影響がないかの確認をし、機械の調子も考慮しつつ、自分が出す値に責任をもって日々仕事をしています。また、発がん性が高い物質でもあるため安全面への影響にも気をつけています。
- ② 先述のように、VOCの精度管理レベルを向上させるため、よりよい手順を整えていきたいと思っています。また、他の分析項目も少しずつ学び、マルチに分析を行えるように成長していきたいです。
- ③ 通常時は旅行、お買い物、ライブ、フェスに行ったりと外に出て楽しんでいます。実家が岐阜で、職場と近いので、友達ともよく遊んで休日を満喫しています。現在はコロナ禍で外に出ることを自粛していますが、オンライン飲み会やゲームで家でも充実しています。

- ① 土壌汚染対策に関する業務で主に調査を担当しています。調査計画を立て、それに沿って予算見積もりを作成し、実際に現場にて協力会社とともに調査を行います。調査の現場で臨機応変に対応できるように、調査に入る前の段階で計画を十分に練り、しっかりと準備するという意識をしています。
- ② 多くの経験を積み、現場ごとの様々な変化に素早く柔軟に対応できるようになりたいです。
- ③ 好きなアーティストの音楽を聴いてドライブに行ったりすることでリフレッシュします。時には、そのアーティストのコンサートに行ったりもします。また、旅行に行くことも好きで、山や川や海など自然豊かなところでリフレッシュしています。



環境事業本部
名古屋事業部
技術課
野々山 智



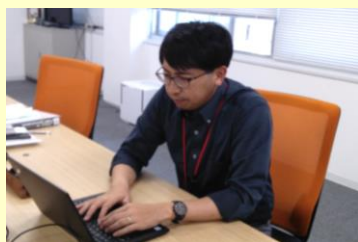
- ① 収集運搬の配車担当として現場で使う車両を手配しています。また、大手メーカーの営業担当をされており、お客様からのご要望を聞いたりお見積りを作ったりしています。土壌汚染について難しい質問を受けることも多いですが、ミスリード（誤った説明や誘導）だけは絶対にしないように、先輩によく確認してからきちんと答えるように注意しています。
- ② 今後は色々な経験を積んで、お客様からの質問に何でも答えられるようになりたいです。また、去年は岡山の災害対応に行き、良い経験が積めたのでまた災害対応を任されるようになりたいです。
- ③ 車を運転することが好きで、よく休日はドライブでリフレッシュしています。昨年、念願のマイカーを購入することができ、より一層ドライブを楽しんでいます。



環境事業本部
名古屋事業部
営業課
八木 孝憲

特集④
**名古屋本社
移転から1年**

社員一丸で動ける組織の構築に必要な環境を整備するため、名古屋本社を移転してから約1年が経ち、多くの社員がその効果を感じているようです。名古屋本社で働く社員にどのような効果があったか話を聞いてみました。



**企画管理本部
人事総務部
情報システム課
人事総務課
伊藤 健二**

本社移転を担当し、一番大きく変更した点はフリーアドレスを導入したことです。フリーアドレスに伴い、自分専用の机がなくなったため、机の上に書類を広げたままでという状況にならず、見た目がとてもきれいになりました。

また、紙媒体のものからデータでのやり取りに変えたことで、業務の効率化だけでなくテレワークといった新しい働き方への移行にもプラスに寄与しました。

部門ごとのコミュニケーションについてはまだまだできていない部分が多いのでデスクの配置を見直すなど、順次対応していきたいです。

※フリーアドレス

社員が個々の机を持たずに図書館のように自由に着席して仕事をするスタイルのこと。



**環境事業本部
環境分析部
分析課
半場 友章**

旧本社では環境分析部の事務の人達と分析業務の人達とフロアが分かれていたため、同じ分析部内でもコミュニケーションが取りづらく、分析業務をしている人達の事務作業の効率も悪かったのですが、新本社は同じエリアのためそれらの問題がなくなりました。

環境分析部では様々な薬品を使用しますが、旧本社では薬品庫だけの機能しかなかった部屋に、新本社では試薬を調整するスペースも併設しました。薬品を別の部屋に運ばずにそこで作業ができるようになり、業務効率化と共に安全面も飛躍的に向上しました。また、全体的にスペースに余裕が出来たため、新たに分析装置や前処理装置を設置することが可能になり新規項目が導入しやすくなりました。

個人的なことでは、名鉄と地下鉄が近くにあるので、電車での通勤がしやすくなったり、更衣室やトイレなどの共有スペースが広がったのは良い点だと思います。

**環境事業本部
名古屋事業部
技術課
山田 真**



技術課は、旧本社では事務所、器具類の洗い場、倉庫がそれぞれ分かれていましたが、本社移転に伴ってそれらの場所が統合されたため移動時間のロスがかなり削減されました。

フリーアドレス導入当初は、誰がどこにいるかわからなくなり、書類の受け渡しや連絡相談が今まで通りにできなかったのですが、承認機能のワークフローの電子化や書類の受け渡しにクラウドの利用等の使用により、今までより迅速に対応できるようになりました。

コミュニケーションの活性化についてはまだ途上だと思しますので、今後に期待しています。



環境問題解決企業として

当社では、環境マネジメントシステム（EMS）によって環境方針の下でPDCAを回しながら事業活動による環境負荷の低減や業務の効率化など継続的改善を行っています。

環境方針

1. 地球環境保全に資するため、当社グループが営むリサイクル事業の中でも特に汚染土壌ならびに産業廃棄物処理の取扱量の拡大を目指します。
2. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の作業を適正かつ安全に行うと共に、不必要なムダを改善して作業の効率化を図ります。
3. 当社で発生する廃棄物の抑制を図ると共に、受け入れた汚染土壌及び廃棄物のリサイクル率を高めるために処理技術の向上に努めます。
4. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の中で、粉じん等の環境負荷の低減及び環境汚染の予防に努め、これらの継続的改善を図ります。
5. 環境側面に関する法規制の他、お客様とのお約束事項、および当社が定める自主管理規定値を遵守します。
6. 当社および当社に関連する組織の環境目的・環境目標を設定し、見直しを行います。

2006年5月15日 制定

代表取締役社長

2016年3月15日 改訂

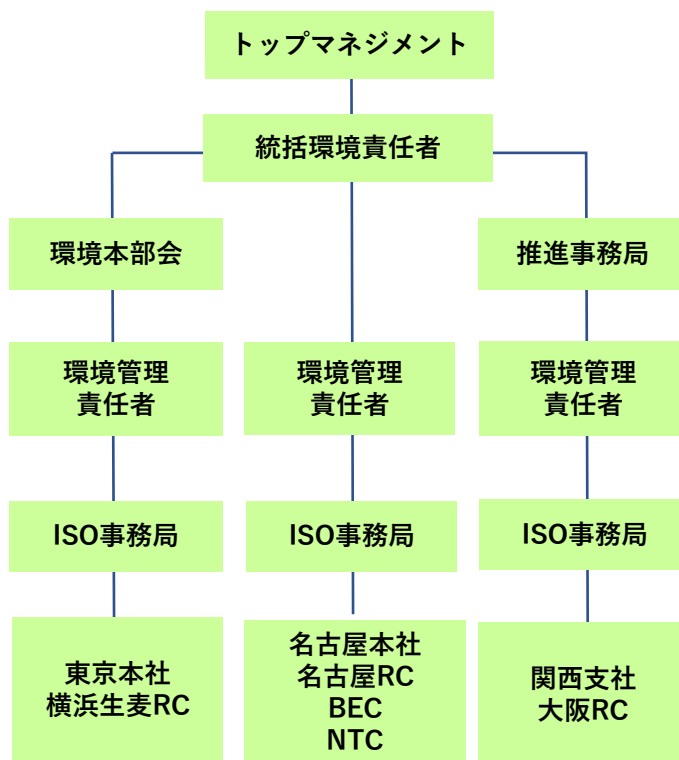
2019年3月6日 改訂

二宮利彦

EMSの認証登録状況と管理体制

- 2002年 (株)ダイセキ名古屋事業所の関連事業所としてISO14001の認証登録 (JQA-EM2116)
- 2006年 JQA-EM2116からJQA-EM5648に分割登録し、名古屋本社、東京本社、関西支社、名古屋リサイクルセンター、横浜生麦リサイクルセンターをISO14001に登録
- 2008年 大阪リサイクルセンターをISO14001に登録
- 2009年 (株)グリーンアローズ中部をISO14001に登録
- 2013年 バイオエネルギーセンターをISO14001に登録
- 2016年 名古屋トランシップセンターをISO14001に登録
- 2019年 (株)グリーンアローズ九州がエコアクション21に認証登録 (認証番号:0011868)
- 2020年 (株)グリーンアローズ中部がエコアクション21に移行 (認証番号:0012938)

| 正式名称 | 略称 |
|---------------|--------|
| 名古屋リサイクルセンター | 名古屋RC |
| 横浜生麦リサイクルセンター | 横浜生麦RC |
| 大阪リサイクルセンター | 大阪RC |
| バイオエネルギーセンター | BEC |
| 名古屋トランシップセンター | NTC |
| グリーンアローズ中部 | GAC |
| グリーンアローズ九州 | GAK |



GAC、GAKはエコアクション21にてEMSを実施中

当社では、事業活動による環境負荷や主業務となる汚染土壌処理などの環境保全活動に対して、PDCAサイクルによる具体的な年間目標の設定とその運用によって環境負荷の低減や環境保全の向上を目指しています。1年間の取り組みの成果を振り返ることによって翌年の継続的改善へと繋げていきます。

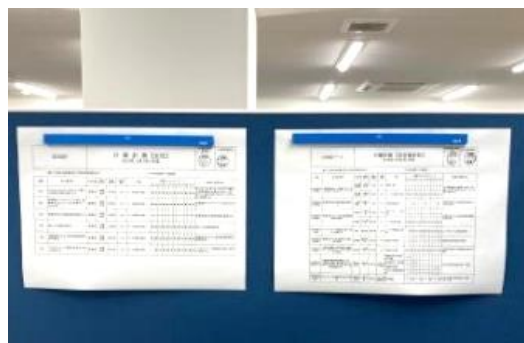
2019年度の目標と取り組み結果

| 目的 | 対象 | 2019年度 | | | 取り組み内容 |
|--------------------|----------------------------------|--------|--------------|----|------------------------|
| | | 目標 | 結果 | 判定 | |
| 環境負荷の低減 環境汚染の予防 | ISO認証範囲の リサイクルセンター・ 工場の入荷量 | 各計画量 | 1センター 未達成 | △ | 営業強化 チーム連携強化 |
| | 粉じんの苦情件数 | 0件 | 1件 | × | 集じん機の保守管理・ 監視・清掃の実施 |
| 廃棄物の抑制 | 入荷量あたりの リサイクル率 | 84.25% | 97.40% | ○ | 処分先・処分方法の 検討 |
| | | | | | 分別の徹底 |

振り返り

達成

- 入荷量あたりのリサイクル率
目標のリサイクル率は84.25%でしたが、分別を徹底することで97.4%と大きく上回ることができました。これからもリサイクル率を高水準で維持できるように引き続き周知徹底をしていきます。



年間目標や行動計画を事務所に掲示

未達成

- △リサイクルセンター・工場の入荷量
地域間及びグループ間での連携を強化し、新たな需要の開拓などによって目標達成を目指していましたが、名古屋リサイクルセンターの入荷量が目標計画量の87.5%と未達成でした。その他のリサイクルセンター・工場においては達成いたしました。
- ×粉じんの苦情件数
(株)グリーンアローズ中部において遺憾ながら、期中に粉じんの飛散で1件の苦情を頂戴しました。すぐに先方にお伺いして状況を確認した上で、早急な是正措置を心掛けました。
是正措置としまして、粉じんを落とすためのミストの増設、新たに防じんネットの設置などを行っております。工事完了後は先方に対策内容をご説明し、その後は苦情をいただいております。

2020年度の目標

| 目的 | 対象 | 2020年度 | | 取り組み内容 |
|--------------------|----------------------------------|------------------|--|-------------------------------------|
| | | 目標 | | |
| 環境負荷の低減 環境汚染の予防 | ISO認証範囲の リサイクルセンター・ 工場の入荷量 | 各センター・工場 計画量 | | 営業強化 チーム連携強化 社会状況に合わせた目標値の見直し |
| | 粉じんの苦情件数 | 0件 | | 集じん機の保守管理・ 監視・清掃の実施 |
| 廃棄物の抑制 | 入荷量あたりの リサイクル率 | 管理値以上 (83.0%) | | 処分先・処分方法の検討 |
| | | | | 分別の徹底 |

自社の姿を把握し、更なる飛躍へ

当社は、マスバランス（物質収支）を明らかにすることにより、事業活動に伴う環境負荷の把握と低減に努めています。

INPUT

汚染土壌
 518,000t

産業廃棄物
 235,039t

エネルギー
 86,100GJ

資源

| | |
|--------|-------|
| 廃石膏ボード | 35.7% |
| 汚泥 | 24.1% |
| 混合廃棄物 | 22.9% |
| 燃え殻 | 12.6% |
| その他 | 4.7% |

| | |
|------|-------|
| 電気 | 69.3% |
| 軽油 | 28.0% |
| ガソリン | 2.7% |

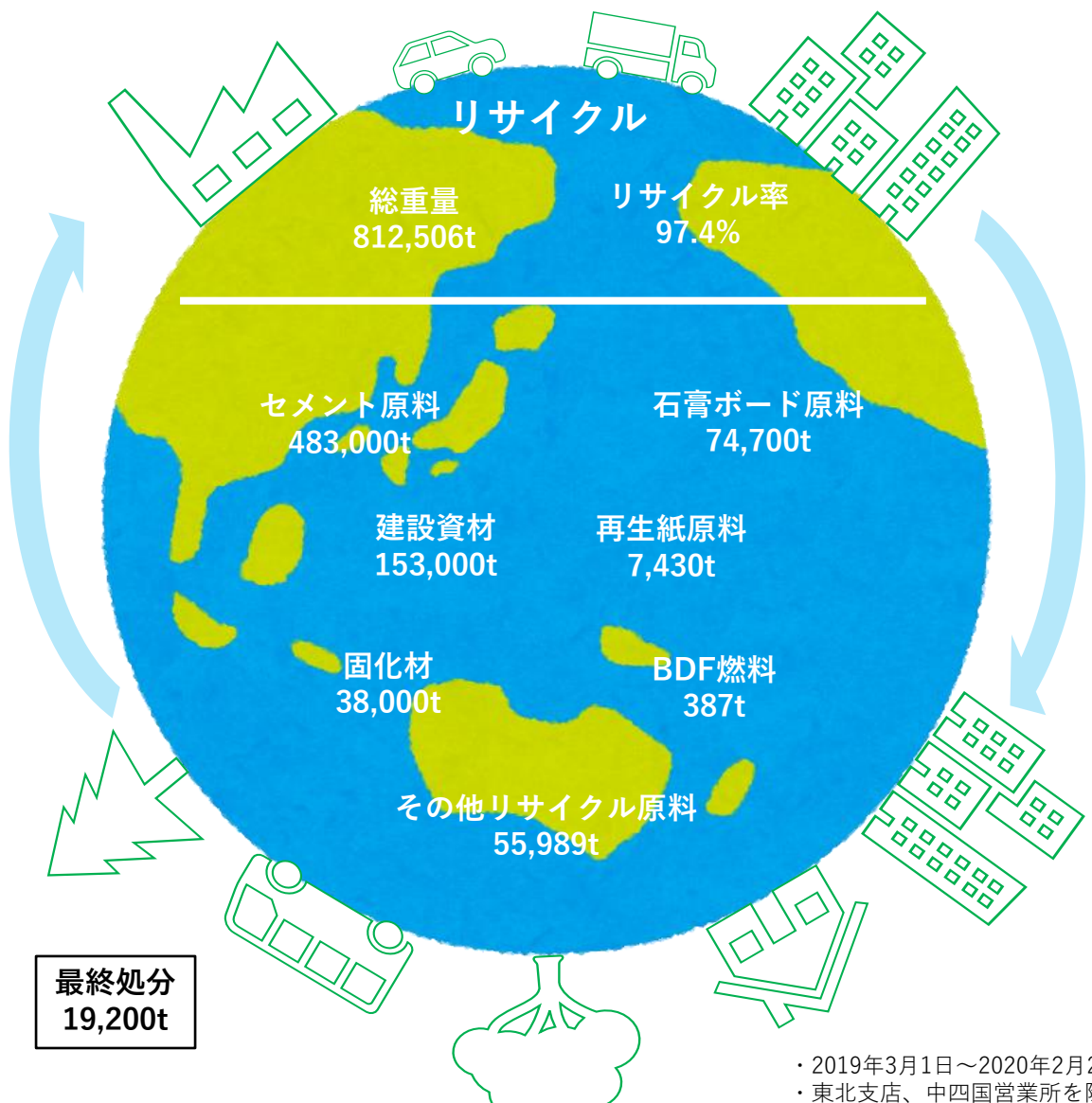
| | |
|-------|-----------------------|
| 工業用水 | 12,100 m ³ |
| 水道水 | 32,500 m ³ |
| 石灰 | 7,750t |
| 固化材 | 8,100t |
| その他薬剤 | 1,434t |

廃食油
 160t

事業活動

Daiseiki

OUTPUT



・ 2019年3月1日～2020年2月29日集計
 ・ 東北支店、中四国営業所を除く

データ管理で適正な運営をしています

当社では、事業所別に環境データを測定し、環境影響を持続的に改善する指標としています。また、事業活動に伴う二酸化炭素排出量を把握し、その削減に積極的に取り組むことで地球温暖化対策を図っています。

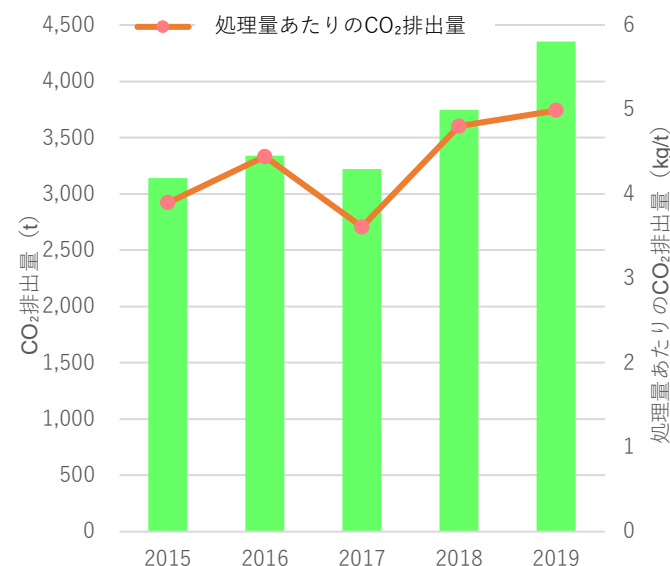
排水水質データ（水質汚濁防止法に基づいた項目）

| 事業所 | pH | | BOD (mg/L) | | COD (mg/L) | | SS (mg/L) | | n-Hex (mg/L) | |
|----------|---------|-----|------------|------|------------|------|-----------|-----|--------------|-----|
| | 基準値 | 実測値 | 基準値 | 実測値 | 基準値 | 実測値 | 基準値 | 実測値 | 基準値 | 実測値 |
| 名古屋RC① | 5.8~8.6 | 7.4 | 160 | 13 | - | 16 | 200 | 6 | 5 | <1 |
| 名古屋RC② | | 7.5 | - | 1 | 160 | 4 | | 9 | | <1 |
| 名古屋RC③ | | 7.4 | 160 | 1 | - | 14 | | 75 | | <1 |
| 弥富RC | 5.0~9.0 | 7.6 | - | - | 160 | 5 | 200 | <5 | 5 | <1 |
| 横浜恵比須RC① | 5.8~8.4 | 7.3 | 130 | <1 | 130 | <1 | 160 | <5 | 5 | <1 |
| 横浜恵比須RC② | 5.8~8.5 | 7.4 | 130 | 1.0 | 130 | 3 | 160 | <5 | 5 | <1 |
| 横浜恵比須RC③ | 5.8~8.6 | 7.3 | 130 | <1 | 130 | <1 | 160 | <5 | 5 | <1 |
| 横浜生麦RC① | 5.8~8.6 | 7.2 | 130 | 1.5 | 130 | 2.2 | 160 | 6 | 5 | <1 |
| 横浜生麦RC② | | 7.4 | 130 | 23.4 | | 14.5 | | 9.2 | | <1 |
| 大阪RC | 5.0~9.0 | 7.5 | 600 | <1 | - | <1 | 600 | <5 | 5 | <1 |
| 岐阜RC | 5.8~8.6 | 7.8 | 160 | 3 | - | - | 200 | 12 | - | - |

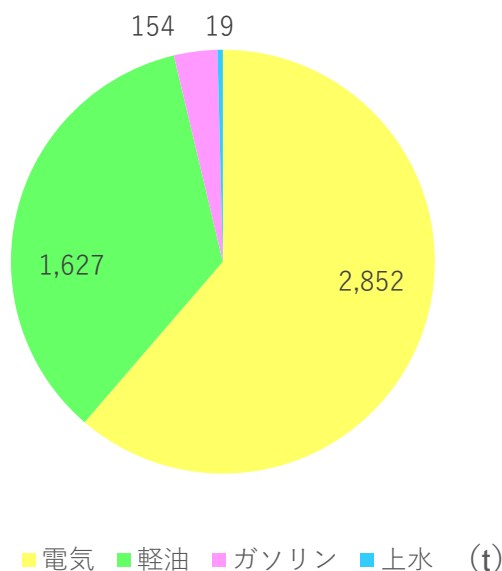
大気汚染物質データ（大気汚染防止法及び土壌汚染対策法に基づいた項目）

| | 許容限度 | 名古屋RC | 横浜生麦RC | 大阪RC | 岐阜RC |
|---|------|--------|--------|--------|--------|
| カドミウム及びその化合物 (mg/m ³ N) | 1 | <0.05 | <0.001 | <0.05 | <0.002 |
| 塩素 (mg/m ³ N) | 30 | <1 | <0.2 | <1 | <1 |
| 塩化水素 (mg/m ³ N) | 700 | <2 | <3 | <2 | <2 |
| フッ素、フッ化水素及びフッ化ケイ素 (mg/m ³ N) | 10 | <1 | <1 | <1 | <1 |
| 鉛及びその化合物 (mg/m ³ N) | 20 | <0.002 | <0.01 | <0.002 | <0.002 |
| 窒素酸化物 (volppm) | 250 | <13 | <4 | <13 | - |
| 1,2-ジクロロエタン (volppm) | - | <1 | <0.5 | <1 | - |
| ジクロロメタン (volppm) | - | <1 | <0.5 | <1 | - |
| 水銀及びその化合物 (volppm) | - | <0.002 | <0.005 | <1 | - |
| テトラクロロエチレン (volppm) | - | <1 | <0.5 | <1 | - |
| トリクロロエチレン (volppm) | - | <1 | <0.5 | <1 | - |
| ベンゼン (volppm) | - | <1 | <0.1 | <1 | - |
| PCB (ng/m ³) | - | <1 | 1.3 | <1 | - |

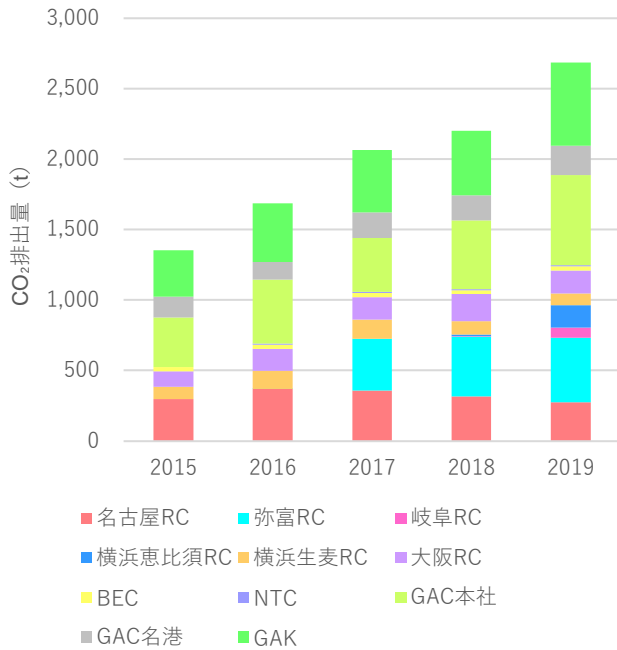
CO₂排出量と処理量



エネルギー別CO₂排出量

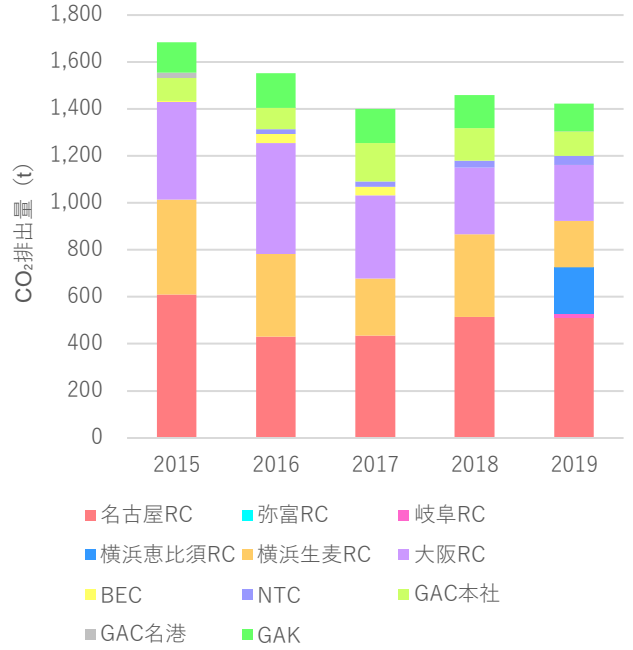


電気使用によるCO₂排出量



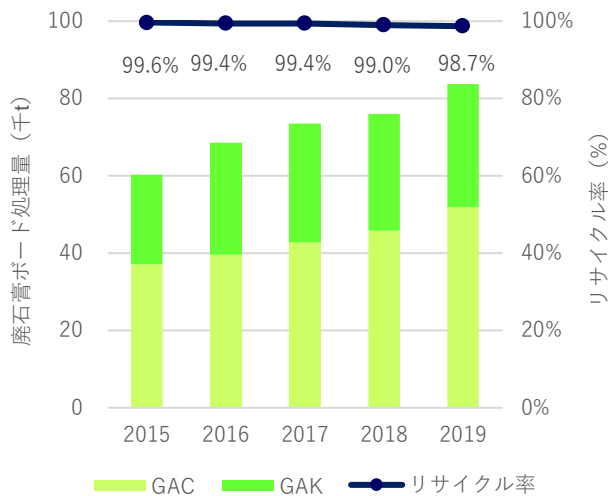
電気使用によるCO₂排出量は、弥富RC、横浜恵比須RC及び岐阜RCの操業開始によって年々増加傾向にあります。そのため、最新施設の設計時には作業効率化や省エネ機器の導入などによって電気使用の抑制に努めています。

軽油使用によるCO₂排出量



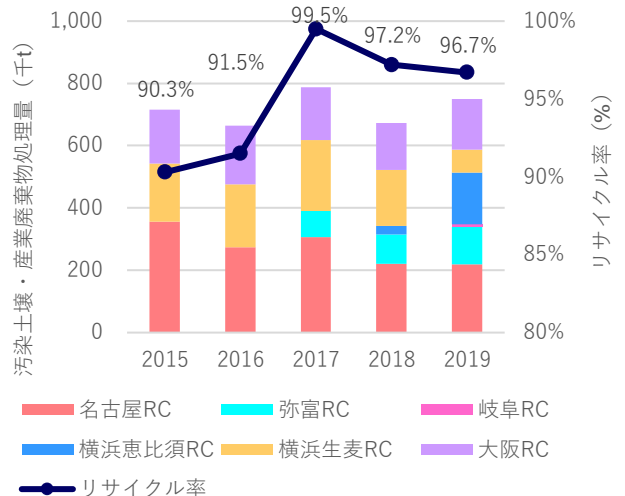
軽油使用によるCO₂排出量は、ここ3年ほど横ばいの傾向となっています。これは、リサイクルセンターや工場において作業効率化や軽油代替燃料の導入などの取り組みの効果ができていると考えられます。

廃石膏ボードの処理量とリサイクル率



廃石膏ボードの処理量は、例年通りのリサイクル率水準を維持しながら、ここ5年間で少しずつ増え続けています。また、廃石膏ボードから剥離した紙くずに石膏粉の付着が多いとリサイクルが難しいのですが、設備を改良して紙くずから石膏粉の大半を取り除くことが可能になってからここ5年間でリサイクル率は98%以上と高水準で推移しています。

汚染土壌・産業廃棄物の処理量とリサイクル率



汚染土壌・産業廃棄物の処理量は、ここ5年間で2017年度を最大としておよそ65万から80万tの間で推移しています。新設の弥富RC、横浜恵比須RC及び岐阜RCが操業開始後も全体量が大幅に増えていない理由として同じ地域内にある名古屋RCや横浜生麦RCとの分業化にあると考えられます。リサイクル率は2017年度以降は96%を維持しています。

事業活動が与える環境負荷は事業者の責任

当社は「環境問題解決」に取り組む企業として、業務における環境負荷の低減や、各種汚染や漏洩の予防に積極的に取り組んでいます。

大気汚染対策



ミスト噴霧（岐阜リサイクルセンター）

リサイクルセンターや工場では、ミストや集じん機の設置により粉じんの敷地外への飛散防止に努めています。また、発じんを防止するために路面清掃車を用いて場内の清掃も実施しています。

汚染土壌の浄化施設では、定期的に排気ガスを測定して外気への有害物質の漏洩がないことを監視しています。年一回行う緊急対応訓練では、訓練を行うだけでなく手順の見直しやテストを実施して緊急事態があっても確実に実施できるように準備しています。

水質汚濁対策



現地水処理プラント

現場工事の際には汚染物質ごとに適切な処理方法を選択して、複数のプロセスを組み合わせた水処理プラントを現地に設置し、適正な状態で排水できるよう徹底しています。

また、リサイクルセンターでは排水の水質調査を行い、排水処理が必要なセンターでは排水処理設備を設置して適正に排水するように徹底しています。受け入れた汚染土壌や廃棄物が雨水に触れて場外に排出されることのないように、荷下ろし場所や保管ヤードなどの管理を徹底して水質汚濁の防止に取り組んでいます。

汚染土壌などの漏洩対策



洗輪場（弥富リサイクルセンター）

リサイクルセンターでは床面のコンクリート舗装により汚染の地下浸透の防止に努めています。また、外部へ汚染土壌を拡散させないように、敷地境界でのえん堤の設置やダンプ荷台へのシート掛けの徹底、リサイクルセンター出入口への洗輪場の設置などの対策を講じています。万が一、運搬中に交通事故などで漏洩があった場合は、運搬会社を含めて関係者で再発防止協議会を行い、再発の防止に努めています。

環境負荷低減のための新しい取り組み



GTL積載のトレーラー

昨年度から重機にGTL※などのエコ燃料を使用することで、二酸化炭素排出量を減らすように努めています。また、国土交通省主催の「ホワイト物流」に参加して物流の効率化による二酸化炭素排出量の削減も目指しています。

※GTL

天然ガス由来の製品であり、環境負荷の少ないクリーンな軽油代替燃料。石油由来の製品と同等の性状を保持しつつ、軽油対比でCO₂排出量を8.5%削減することができる。

出典：伊藤忠エネクス株式会社ホームページより

<https://www.itcenex.com/ja/business/detail/gtlfuel/index.html>

笑顔がある職場に

社員は会社の財産です。社員の健康を第一に考え、個人の能力を十分に発揮し輝くことができる職場づくりを目指して、様々な制度の整備を行っています。

ワーク・ライフ・バランス

当社では仕事と生活の調和のために、以下のような取り組みをしています。

| | |
|-----------------|---|
| フレックスタイム | コアタイムを10:00～15:00とし、適用される社員が出退社時間を柔軟に決定できる制度です。 |
| 時間有給休暇 | 時間単位で有給休暇を取得できる制度です。 |
| テレワーク (在宅勤務) | ICTを活用し、自宅にて業務を行うことができます。 |
| モバイル機器の活用 | ノートPCを貸出し、外部から社内ネットワークにアクセスできるようにすることで外出先で作業を行うことができます。 |
| 一定時間を超える残業の禁止 | 36協定違反となる一定時間超過の残業を禁止しています。 |

サークル活動

当社では、サークル活動を支援・推奨し、社員の健康づくりや社員間の交流をサポートしています。



サイクリングサークルの活動の様子

女性が働きやすい職場を目指して

当社は愛知県の行う「女性の活躍促進宣言※」に参加しています。

宣言

当社は、女性がより活躍できる職場を目指し、以下の取り組みを推進します。

- ・女性がより気持ちよく業務を行えるよう、職場環境の整備を実施します。
- ・子育てや介護と仕事との両立ができるよう、社内制度の改善を行います。
- ・育児休業や介護休暇を取得しやすい環境づくりに努めます。
- ・育児休業からの円滑な復帰を支援します。

※女性の活躍促進宣言

女性の活躍促進に向けて取り組む企業を愛知県が平成26年より募集し、同県が宣言企業をPRや支援する事業。

環境事業本部
名古屋事業部
営業課
柴田 依里子



私の場合、妊娠中から体調が優れないことが多く、長期間休むことがありました。その都度様々な部署の方が声をかけて下さり、温かな気持ちで産休を迎えることができたのを覚えています。

復職した今も、「無理をしないように」「子供を優先して」と言葉で伝えてもらえているので、子供の体調不良の時も休みを取りやすく感じています。復職後も問題なく勤務できているのは、社内の理解と協力があるからこそと感謝の気持ちでいっぱいです。

企画管理本部
人事総務部
人事総務課
森下 純也



年間休日が123日もあり、有給休暇が消化しやすい社内環境なので、とても充実しています。有給休暇を組み合わせると連休取得も可能なので、直近では3泊4日で北海道に行きました。

また、時間有給休暇を活用して就業後に好きな紅葉を観に行くこともできました。

昨年には結婚して子どもが生まれたのですが、育児と仕事を両立させるためにテレワークとフレックスタイム制を組み合わせることで、少しでも多くの時間を家族で過ごすことができています。

悲しむ人が現れないように

当社では、「安全は、すべてにおいて優先する」を安全方針として、社員及び協力会社が一丸となって事故のない安全な職場を目指して日頃より安全衛生管理に取り組んでいます。

中央安全衛生委員会

毎月、役員と各部署長が集まって事故状況の把握と傾向分析を行い、会社の意思決定を早く示すことでグループ内の無事故・無災害の実現を目指しています。

安全衛生部会

各部署において定例で開催し、自主パトロールやヒヤリハットの展開と対策の実施、KY活動など部署ごとに安全活動を行っています。リサイクルセンターなどでは協力会社も一緒になって実施しています。

安全パトロール

各部署で定期的に行う自主パトロールの他、半年ごとに他部署も交えた合同パトロールを行い、4Sや不安全状態など日頃から危険箇所の早期発見に努めています。

安全コンテスト

各部署が安全管理で競い合う安全コンテストは2014年に始まってから6年が経ち、安全レベルの向上や安全文化の醸成に大いに役立っています。

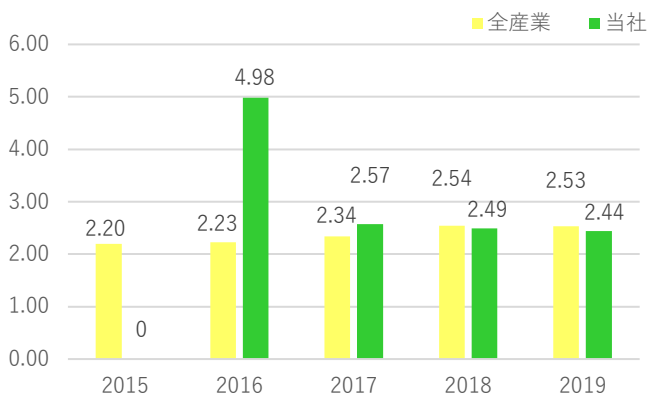
ストレスチェック制度

2015年12月から義務付けられたストレスチェック制度で、全社員が毎年実施し、そのストレス度に応じて段階的に会社や産業医との面談を行いながら社員のメンタルヘルス不調を未然に防止するように努めています。

2019年度の実績

2019年度の休業災害は1件でした。度数率※1は同事業規模（100～299人）の全産業平均値を下回りましたが、強度率※2では同平均値を大幅に上回りました。これらの数字も意識しながら労災ゼロを目標に今後も安全衛生管理に取り組んでいきます。

度数率



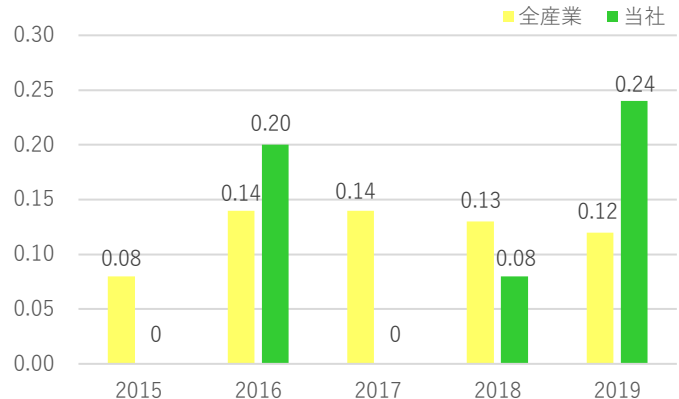
※1 度数率

災害の頻度を表す。

(100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数)

出典：厚生労働省 労働災害動向調査

強度率



※2 強度率

災害の重さを表す。

(1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数)

出典：厚生労働省 労働災害動向調査

安全衛生標語の全社募集

毎年、一年の安全衛生標語を社員から募集しています。最優秀作品は垂れ幕にして各事業所や工場等に掲示し、安全意識の向上に用いています。当社グループだけでなく協力会社からも多くの応募があり、去年は914点の応募の中から下の写真の作品が選ばれました。



安全衛生標語の掲示

安全研修

当社では、新入社員対象の安全研修の他、昨年からは各部署の安全衛生推進者を対象とした安全衛生推進者合同研修を実施しています。



安全衛生推進者合同研修

地域社会と繋がる

当社の事業は環境やリサイクルに大きく関わっており、地域社会の協力なくして発展はありません。そのため、当社では地域社会とのコミュニケーションを大切にしながら、事業以外においても様々な形で社会貢献活動に取り組んでいます。

藤前干潟クリーン大作戦

国設鳥獣保護区かつラムサール条約登録地の藤前干潟は、名古屋港に残された日本最大級の渡り鳥渡来地です。しかし、川の上流から大量のゴミが漂着しており、生態系への悪影響が懸念されています。

名古屋本社では、2011年から藤前干潟清掃活動への参加を社員へ呼びかけるとともに、参加する社員に対して昼食や熱中症対策の飲み物を提供し、活動を支援しています。



藤前干潟クリーン大作戦終了後のゴミの山

構外清掃

各事業所で定期的に構外清掃を行っています。構外清掃では、事業所の周りや事業所から最寄りの駅までの区間でゴミ拾いを行います。町内で協力し合って清掃を行っているためか、ゴミは比較的少ないのですが、きれいな街づくりのためこれからも続けていきます。



構外清掃の様子

当社では、お取引先様や投資家の皆様、地域の皆様などステークホルダーの皆様との信頼関係を重要課題の一つと考えています。今後も更なる信頼関係構築に向け皆様とのコミュニケーションを図ってまいります。

情報開示

産廃情報ネット等による情報開示

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する産業廃棄物情報サイト「産廃情報ネット」にて、処理業の優良性の判断に係る情報開示及び許可取得状況開示を行っています。また、愛知県ホームページにて再生資源の適正な活用に関する要綱に基づく情報を掲載しています。

土壌汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示

環境省の「土壌汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示に関するガイドライン」に従い、調査実績及び技術力（資格者数等）等の情報を自社ホームページにて開示しています。

IR※活動

当社では、投資家の皆様に当社の健全経営を示す場として、IR説明会を積極的に開催しています。また、従業員が株主となる持ち株制度も整備しています。

※IR

Investor Relationsの略。企業が投資家に向け、経営状況や財務状況、業績動向に関する情報を発信する活動。

Family Day

社員のお子さんを会社に招待する『Family Day』を毎年開催し、ご家族が会社で一日楽しんでもらえるような企画を毎年考えています。お子さんが仕事を体験することで、お父さんやお母さんがどのような仕事をしているのかを知る機会となっています。

増加する大規模災害に私たちのできること

当社は、一般社団法人日本災害対応システムズ（JDTS）及び一般社団法人愛知県産業廃棄物協会に加盟しており、被災地域の復興支援活動にも今後も積極的に取り組んでいきます。

西日本豪雨災害廃棄物処理業務



岡山県での作業現場の様子



愛媛県での災害廃棄物置き場の様子

2019年7月の西日本豪雨では、広域かつ同時多発的に、河川の氾濫やがけ崩れが発生し、家屋の全半壊等22,001棟、家屋浸水28,469棟※という広範囲で甚大な被害をもたらしました。この被害によって岡山県、広島県、愛媛県を合わせて174万t※もの大量の災害廃棄物が発生し、復旧活動の障害となりました。

当社加盟の（一社）日本災害対応システムズ（JDTS）は、岡山県の要請を受けた県内企業を中心とした共同企業体に参加し、これらの災害廃棄物の受入れや処理において積極的にサポートを行いました（左上写真）。

また、愛媛県宇和島市でも災害廃棄物処理を行っており、地元の建設会社に処理方法や管理方法などについてのアドバイスをを行いました（右上写真）。

※環境省ホームページより引用

【概要版】平成30年7月豪雨による被害状況等について（内閣府 非常災害対策本部 平成31年1月9日17:00現在）

台風19号による千曲市災害廃棄物処理業務



災害廃棄物仮置き場での作業風景



感謝状を頂きました

2019年10月の台風19号では、多数の都県で河川の氾濫と土砂災害が起き、甚大な被害をもたらしました。

中でも千曲川の氾濫により多くの家屋等が浸水した長野県千曲市では、市のごみ処理場の能力を大きく超えた災害廃棄物が発生し、環境省の要請を受けた愛知県の再要請の下、（一社）愛知県産業廃棄物協会が中心となって災害廃棄物の受入業務を行いました（左上写真）。当社を含む同協会加盟の産業廃棄物処理業者44社が現地で仮置き場の管理・運営及び廃棄物の搬出・処分を行い、当社はその取りまとめを行いました。後日、その功績が認められ同協会から感謝状を頂きました（右上写真）。現地での作業中に架かった大きな虹をみんなが手を止めて眺めていた光景は忘れられません（右写真）。



災害廃棄物置き場に架かった一本の虹

当社は、土壌汚染対策事業を中心として、各種環境関連事業を行っています。そのため、社会全般で共通の法令の他、業務上で特異性のある法令やその他の環境関連の法令など多くの法規制があり、それらの遵守のため、体制や運用面を強化しています。

法令遵守

| | | |
|-------------|---|---|
| 一般的な法令 | 労働安全衛生法 労働基準法 道路交通法 消防法 建築基準法 | |
| 業務上の法令 | 全事業部門に共通 | 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法） |
| | 土壌汚染対策事業 | 土壌汚染対策法 建設業法 |
| | バイオディーゼル燃料製造販売事業 | 食品リサイクル法 |
| | PCB事業 | PCB特別措置法 |
| | 環境分析部門 | 計量法 毒物及び劇物取締法 放射線障害防止法 電波法（ICP発光分析装置の届出） |
| その他環境関連等の法令 | エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法) 大気汚染防止法 水質汚濁防止法 下水道法 騒音規制法 悪臭防止法 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律 | |

内部統制・組織運営・監査体制

当社の取締役会は、2020年8月31日現在で取締役9名（うち監査等委員3名）で構成されています。取締役会は毎月1回以上開催され、会社法に定められた事項や経営に関する重要事項が審議されています。

監査等委員会は、当社との利害関係のない社外取締役3名で構成され、原則として毎月1回開催されています。各監査等委員は、取締役会及びその他の重要な会議に出席し意見交換するほか、取締役の職務を監督しています。

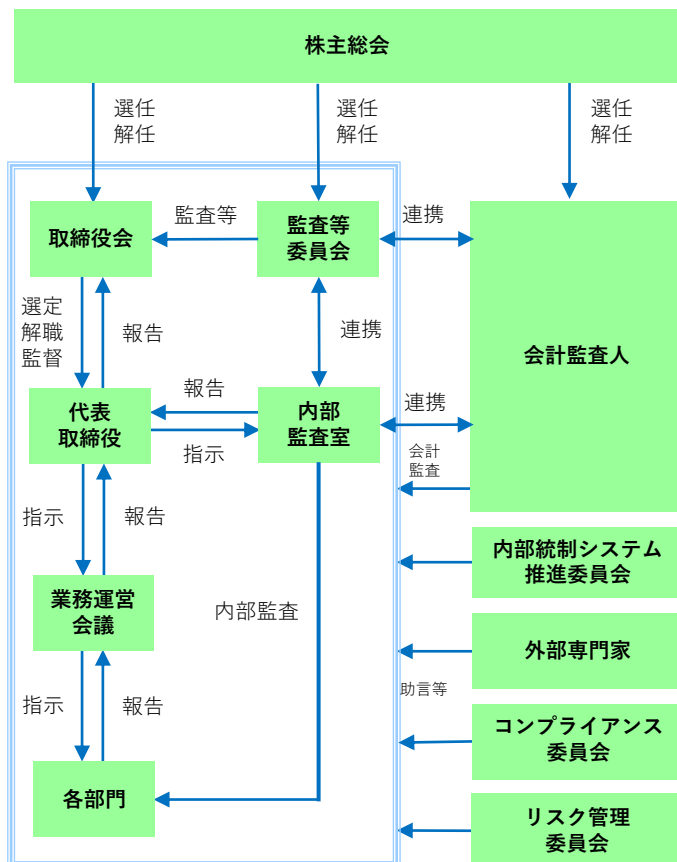
内部監査は定期・不定期の内部監査を実施しており、当該監査結果は毎回、社長に報告しています。

コンプライアンス勉強会

毎月1回、インサイダー取引など一般的な法令から業務上必要な法令まで社員の理解と周知徹底を目的とした勉強会を実施し、社員のコンプライアンス意識の向上に努めています。

倫理綱領

ポケットサイズの倫理綱領（右写真）には、経営理念や行動規範など社員が遵守すべき内容が記載されています。当社グループの社員はこれをいつでも見ることができるよう全員が携帯しています。



会社概要

社名 株式会社ダイセキ環境ソリューション
 (東京・名古屋証券取引所第一部)
 (証券コード1712)

本社所在地 〒467-0852
 愛知県名古屋市瑞穂区明前町8番18号

代表者 代表取締役社長 二宮 利彦

設立 1996年11月1日

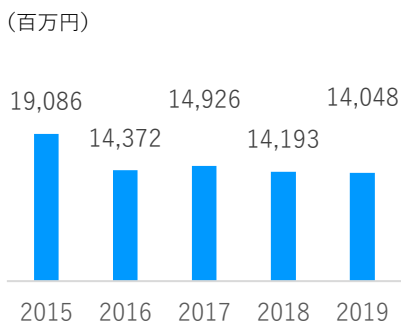
資本金 22億8,746万8,700円

従業員数 188名 (2020年6月末現在)

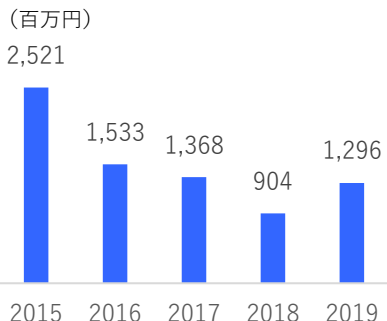
URL <http://www.daiseki-eco.co.jp>

業務内容 土壌汚染調査
 汚染土壌処理及び工事
 産業廃棄物処理及び収集運搬
 環境分析
 環境コンサルティング
 廃石膏ボードリサイクル
 固化材製造
 廃食油のバイオ燃料化
 PCB廃棄物収集運搬及びコンサルティング

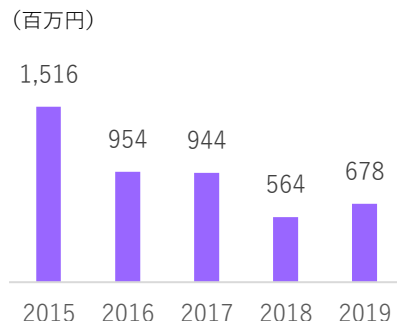
売上高の推移



経常利益の推移



純利益の推移



拠点

- ・東北支店
- ・共同事業汚染土壌処理施設
(仙台リサイクルセンター)

- ・関西支社
- ・大阪リサイクルセンター

- ・中四国営業所

- ・九州営業所
- ・(株) グリーンアローズ九州

- ・事業所
- ・リサイクルセンター/工場
- ・グループ会社

- ・東京本社
- ・横浜恵比須リサイクルセンター
- ・横浜生麦リサイクルセンター

- ・岐阜リサイクルセンター

- ・名古屋本社
- ・名古屋リサイクルセンター
- ・弥富リサイクルセンター
- ・バイオエナジーセンター
- ・名古屋トランシップセンター
- ・(株) グリーンアローズ中部 本社工場
- ・(株) グリーンアローズ中部 名港工場

グループ会社

- ・株式会社グリーンアローズ中部
廃石膏ボードのリサイクル、地盤改良材の製造販売
- ・株式会社グリーンアローズ九州
廃石膏ボードのリサイクル

ダイセキグループ

- ・株式会社ダイセキ
産業廃棄物処理及び収集運搬、石油製品の販売
- ・北陸ダイセキ株式会社
潤滑油製造、石油製品販売
- ・株式会社ダイセキMCR
鉛の精錬、使用済みバッテリーのリサイクル
- ・システム機工株式会社
タンク貯蔵施設の洗浄工事及びその付帯工事



関西学院大学 総合政策学部 総合政策学科 教授
(生態人類学専攻)

今井 一郎 氏

プロフィール

京都大学より理学博士の学位を取得。2000年より現職。専門は生態（文化）人類学。自然環境に強く依存した暮らしを営む民族の生業活動に焦点を当てた調査研究をしている。

現在は、アフリカ大陸の湿地帯で漁撈活動に関する調査を行なう他、ヒマラヤ高地民の生活文化について調べている。日本国内では、世界遺産・白神山地周辺の集落で調査を進めている。

この度、本報告書を拝見しまして報告書全体の色調が貴社の事業内容にマッチしているように感じられ良い印象を受けました。内容について章ごとに感想を述べさせていただきます。

まずトップメッセージについて、貴社が掲げるVISION2025の個々の目標に対する活動成果を具体的に示していることが評価できます。今後の5年間で、大きく飛躍し、目標が達成されることを期待しています。また、貴社がSDGsに対して真剣に取り組む姿勢を明確に示していることも良いと思います。個々の目標に対する活動成果を具体的に示していることも良いかと思えます。働き方改革を通じてSDGsに貢献するだけでなく、事業そのものでSDGsに貢献していることは非常に興味深く感じます。COVID-19（新型コロナウイルス感染症）に関しても言及されており、評価できます。

事業紹介については、貴社の事業内容が、写真やイラストを交えながら分かりやすく説明してあります。一方で、土壌汚染対策事業以外の事業のスペースが狭くアンバランス、つまりは各事業間の関係性が明確に述べられていないと感じました。個々の事業の成果、今後の方針についても述べて欲しかったです。

新規事業については、「産廃収集運搬マッチングサービス」の記事が興味深く感じられました。残念だったのは、本事業の意義や歴史、成果、将来性についての記述が少なく、特に事業の意義をもっとアピールされてもよいと思います。

次に、女性の社会進出と高齢化社会についての内容ですが、本報告書では女性社員・スタッフの活動についての言及が不十分であると感じました。女性が活躍できる職場であると述べる以上は、女性役員の比率等のデータを示す必要があると思えますし、女性社員へのインタビューで済ますだけでは信用を得られないでしょう。

また、高齢化社会と貴社の事業内容との関係についても示されていません。今後とも高齢化（日本と世界）社会の中で企業活動が営まれることになるのですから、どのように高齢化に対処し事業を展開するかという見通しを持たない企業は社会から信頼されないのではないのでしょうか？

貴社の事業内容は、世界に通じるものであるため、活動範囲を更に広げ、国際的な場で技術力・運営能力を発揮すべきではないかと思えます。特に発展途上の国や地域では、今後需要が高まることが予想されます。「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、足元から行動せよ）」を実践する絶好の機会ではないのでしょうか。

最後に、一般的にCSRレポートは、企業・機関の活動を巡る全てのステークホルダーを意識して作成されるべきとされています。本報告書を読む限り、社会貢献活動や災害復興支援活動にあたる貴社の姿勢と実績は各方面から高く評価されるはずで、貴社が今後、更に環境面においても社会面においても貢献されることを祈念しております。

アンケート

環境・社会報告書2020 アンケート

環境・社会報告書2020をお読みいただきありがとうございます。
報告書の継続的な改善のため、本アンケートの回答にご協力をお願いいたします。

1. 差し支えなければ貴方様についてお聞かせください。(あてはまるものに✓)

- ①年齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
②性別 男性 女性
③職業 学生 会社員 公務員 その他 ()
④当社との関係 お客様 株主 お取引先 行政 金融機関 環境NPO・NGO その他 ()

2. 本報告書を読んだ感想をお聞かせください。(あてはまるところに○ 5段階評価)

- | | | | | | | |
|--------------------------|--------|--|--|--|--|--------|
| ①内容は分かりやすかったですか。 | 分かりにくい | | | | | 分かりやすい |
| ②内容は充実していましたか。 | 不足している | | | | | 充実している |
| ③デザインやレイアウトはいかがでしたか。 | 悪い | | | | | 良い |
| ④ページ数は適当でしたか。 | 少ない | | | | | 多い |
| ⑤当社の取り組みについてご理解いただけましたか。 | できない | | | | | できる |
| ⑥当社の取り組みは評価できますか。 | できない | | | | | できる |

3. 印象に残ったページや取り組みがありましたらお教えてください。(あてはまるものに✓ 複数回答可)

- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 表紙 | <input type="checkbox"/> 目次 | <input type="checkbox"/> トップメッセージ | <input type="checkbox"/> 事業紹介 |
| <input type="checkbox"/> 特集：新規事業 | <input type="checkbox"/> 特集：部署紹介 | <input type="checkbox"/> 特集：若手社員インタビュー | <input type="checkbox"/> 名古屋本社移転の効果 |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント | <input type="checkbox"/> 2019年度の取り組みと振り返り | <input type="checkbox"/> マスバランス | <input type="checkbox"/> 環境測定データ |
| <input type="checkbox"/> 環境負荷低減への取り組み | <input type="checkbox"/> 働き方改革 | <input type="checkbox"/> 安全衛生管理 | <input type="checkbox"/> 社会貢献活動 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーション活動 | <input type="checkbox"/> 災害復興支援 | <input type="checkbox"/> コンプライアンス | <input type="checkbox"/> 会社概要 |
| <input type="checkbox"/> 第三者コメント | <input type="checkbox"/> 裏表紙 | | |

4. 本報告書をどちらでお知りになりましたか。(あてはまるものに✓)

- 弊社ホームページにて インターネット検索にて 弊社営業担当者より マスメディア ()
その他 ()

5. ご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。

当社資料(会社案内パンフレット)の送付を希望される方は以下のご記入をお願いいたします。
お名前(フリガナ)

会社名(フリガナ)

ご住所 〒

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

送り先 株式会社ダイセキ環境ソリューション 環境事業本部 事業推進部 事業推進課 宛
FAX：(052)819-5311



ダイセキ環境ソリューション

検索

